

平成 27 年度来訪者受入環境整備第 1 回ワーキング

- 日 時: 平成 27 年 4 月 22 日(水)14 時 00 分～15 時 15 分
- 会 場: 産業貿易センタービル 9 階会議室

1 開会・あいさつ

- (1) YCVB スタッフ紹介
- (2) 参加事業者自己紹介

2 平成 27 年度来訪者受入環境整備ワーキングの活動について

- (1) 27 年度 YCVB 来訪者受入環境整備事業の取組みについて
- (2) 27 年度 来訪者受入環境整備ワーキングのテーマおよび活動概要
- (3) ワーキング相談役の紹介

3 事業者連携創出事業について

- (1) 事業の趣旨・概要説明
- (2) 本年度応募予定の企画提案内容について
- (3) ワーキングでの取組みについて(考え方)
- (4) 質疑応答

-
- (5) 意見交換
 - (6) 今後のスケジュールについて

4 その他

- (1) 横浜市からのお知らせ
- (2) 事業者様からのお知らせ

5 閉会

.....【配布資料】.....

- ① YCVB 事業部 来訪者支援課 27 年度事業説明資料
- ② 27 年度 来訪者受入環境整備ワーキング説明資料
- ③ 事業者連携企画創出事業 説明資料
- ④ 平成 27 年度来訪者受入環境整備ワーキング参加者名簿
- ⑤ ワーキング参加事業者様からのお知らせ

平成 27 年度来訪者受入環境整備第 1 回ワーキング 議事メモ

- 1 日時: 平成 27 年 4 月 22 日(水)14 時 00 分～15 時 15 分
- 2 会場: 産業貿易センタービル 9 階会議室
- 3 出席者: 26 名
- 4 議事内容: 以下のとおり

(1) 平成 27 年度来訪者受入環境整備ワーキングの活動について (YCVB 中村より)

- YCVB 来訪者受入環境整備事業の主な取組みは以下のとおり。

- ① 多言語(多文化)対応
- ② IT 活用
- ③ 案内所機能強化
- ④ その他

このなかで①と②のテーマについて、ワーキング活動でも推進していきたい
その第一弾は、②の IT 活用の具体的な取組みとして、市内回遊性を高める

- 27年度 来訪者受入環境整備ワーキングのテーマおよび活動概要

・取組みの方向性は以下のとおり。

- ① IT 活用 →市内回遊性を高めるアプリを使ったサービスポータルづくりによる取組み
(事業者連携企画創出事業の申請を想定)
- ② 多言語対応 →意見交換を実施し、取組みの範囲および内容はワーキングで決定

- ワーキング相談役の紹介

・事務局は YCVB が担当、アドバイザー役として以下の3名にお願いしたい。

藤木企業(株) 深川様、東日本電信電話(株)小島様、凸版印刷(株) 吉野様

(2) 事業者連携創出事業について

・27 年度来訪者受入環境整備ワーキングからは、富士ゼロックス様提案の、「横浜ポータルスマートフォンアプリ」を提案することで調整中。(※事業申請〆切: 4 月 30 日)

- 富士ゼロックス様、アドコミュニケーション様から事業内容の提案。

※提案企画内容の詳細については配布資料参照のこと。

- 本提案(「横浜ポータルスマートフォンアプリ」)への参画事業者の募集。

⇒参画希望事業者は 4 月 28 日までに、富士ゼロックス様へ連絡していただきたい。

連絡先: 富士ゼロックス(株) 石原秀紀様 TEL : 045-755-9925

E-Mail: hideki.ishihara@fujixerox.co.jp

○ 自由意見

- 自社の地図でも似たような取組みを行っていたり、考えていたりするが、アプリを使った展開で広告収入を得るのは、横浜では厳しい。
- 横浜にはマップやツールなどは多数あり、利用者にとっては取捨選択が難しい。それらを連携したり、束ねたりして、「横浜といえば、これ」と言えるようなものをつくっていくべきである。
- (今回のアプリが)きっかけになればよい。どこの観光地にもマップはいくつもあり、それぞれ特徴もある。なので、このアプリ開発をきっかけに連携していければよいと思う。また、防災マップは重要であり、東京都など補助金や予算をつけている自治体もある。そういったことともコネクトするのは重要である。横浜市にもそういう取組みがないか、国にもそういう助成制度があるかなど動向を見ながら、検討すべきである。
- るるぶ FREE(旅行系フリーマガジン)がないのは横浜だけ。広告取るのが難しいから。なので、どこまで皆で協力できるかを考えるべき。免税店情報やアプリに盛り込む情報をどこまで広げるかも今後検討する上で重要だ。
- 防災アプリについて相談を受けることがある。L アラート(※災害情報共有システム)が来ると、自動的にその画面に切り替わる仕組みがある。今回のアプリはそういった防災システムとどういう風にやっていくのか？(→(提案者側:)具体的にはまだ考えていないが、GPS を使って広域避難場所等に誘導することを想定している。)
- 来訪者向けということは、多言語展開は想定しているのか？(→(提案側:)今年度は日本語で運用するが、多言語展開もいずれ考えていきたい。まずは出来る予算範囲でやっていく。)
- 日本人も外国人も使えるものを作っていくべきだと思う。横浜市内にも翻訳事業者はいるので、その辺は調整させて頂きたい。
